琵琶湖生態系修復総合対策研究費 2）

内湖の漁場環境修復による種苗育成状況のモニタリング

上野　世司

◆背景・目的

水田を活用したニゴロブナ種苗生産放流の効果把握、湖北野田沼や松ノ木内湖をモデル水域とした環境修復型栽培集中実施効果の検証のためのモニタリングを行った。

◆成果の内容・特徴

野田沼への水田育成ニゴロブナ稚魚の流下数は約38万尾と推定された。

魚類相を小型定置網により調査した。湖北野田沼では、ブルーギルが優占していた（図1）。松ノ木内湖では、外来魚は少なかった（図1）。

湖北野田沼流出水路の堰上げ部における魚類の遡上や流下状況を調査した。秋期にオオクチバスとブルーギルの遡上が多かった（図2）。

◆成果の活用・留意点

来年度も引き続き、モニタリングを行う予定である。

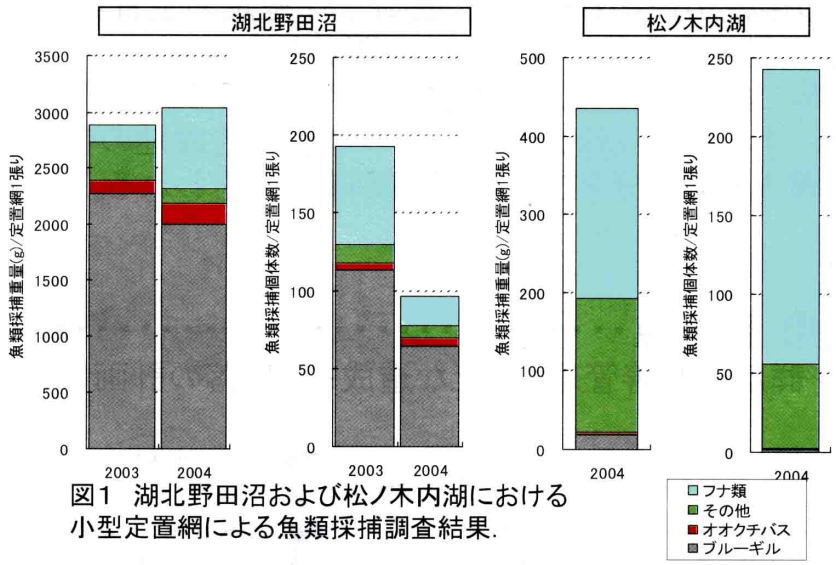

図1　湖北野田沼および松ノ木内湖における小型定置網による魚類採捕調査結果.

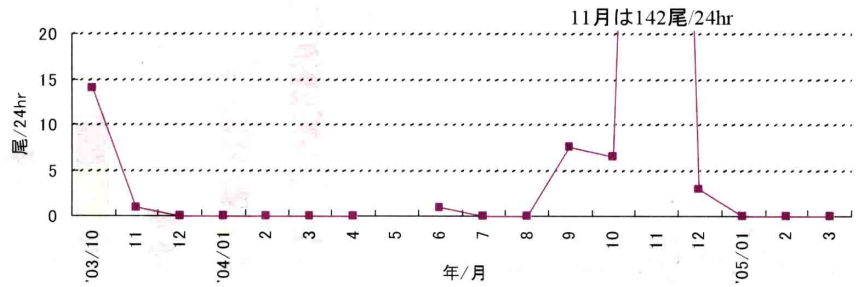

図2　湖北野田沼流出水路の堰におけるオオクチバスとブルーギルの遡上調査結果.
堰の潜孔上流側に設置した籠網による24時間あたりの採捕尾数合計を示した.